

町田市立陸上競技場（野津田公園）の改修について、 より慎重な審議と住民との合意形成を求める請願

請願要旨

私たちは、二十年来、市と協力し合って野津田公園の里山的環境を守り活用する活動を続けてまいりました。

「スポーツ」から「里山」まで幅広い市民のニーズに応え、調和がとれた安らぎの空間として野津田公園が現在の形で整備されていることに対し、私たちは市民として誇りを感じるとともに、次代に対する責任感を抱いております。そしてこの自然と調和した幅広いニーズに応える公園のあり方は、市民の日々の暮らしを元気づける場として今後ますます重要になってくるだろうと感じています。それは、昨年七月に町田市が行なった「事業仕分け」で仕分け人の皆さんが一致して評価した野津田公園のコンセプトでもあり、私たちは活動の継続への決意を改めて再確認しております。

ところが、ちょうどその折、12月17日に新聞紙上で「野津田公園の陸上競技場を改修し、サッカー観戦用競技場として、万人規模の観客席と夜間照明を整備する」との市長の記者発表を知り、大きな驚きと当惑を覚えました。町田市のサッカーチームが全国で勝ち続けていくことは、もちろん私たちにとっても嬉しいことであり、願いでもあります。しかし、野津田公園のこれまでの歴史と現況、経済不況と環境問題が世界的な課題である時代背景を十分に考慮されての発表であったのかと、大きく疑念を覚えました。

野津田公園は、1982年に運動施設を中心とした総合公園として基本計画が発表されましたが、市民の陳情署名によって、90年には市が「自然に配慮した計画へ見直す」と表明。96年に発表した『第2期整備基本設計』の基本方針には「ふるさとの自然と文化を守り育てる公園」の一項が加わりました。

一方、スポーツ施設においては、当初の予定にあった公式野球場の建設にむけて、2001年に調査費を計上。翌年に、以下の内容でまとめが報告されました。

● 整備の方向性・まとめ（野津田公園2期整備区域野球場調査業務委託報告書より抜粋）

冒頭で述べたように、園内に15000人規模の野球場を整備することは、技術的には可能である。だが、整備と引き換えに多くの緑が失われ、周辺で生活している人達に、渋滞、騒音、光害など、生活に支障をきたす問題を与えてしまうことは事実である。これらの問題を解決するためには、駐車場の問題一つを取り上げてみても、莫大な費用と年数・労力がかかり、費用対効果を考えてみても、効果が高いとは言い難い。計画予定地内に15000人規模の野球場を整備することは、問題点も多く難しいと思われる。

市は、この報告を受けて公式野球場は野津田公園につくらず、小野路町の朝日生命グラウンドを買収して決着をつけたのです。それは、わずか数年前のことであり、記憶に新しいところです。

更に、09年の年明けには、周辺一帯の環境への配慮が評価を受け、公園の西に隣接する小野路が東京都で唯一「にほんの里100選（朝日新聞社・事業）」に選ばれ注目される事態も生まれました。この評価は、その入口である野津田公園の環境へ配慮した公園計画なしにはありえなかったことでしょう。

このような経緯がある中で、関係団体・地域住民への周知もなく行われた「サッカー観戦用の競技場整備」の発表に対し、十分議論がなされてのものなのか疑念を抱いております。

す。球場整備中止の後どのような変化があったのか説明もなく、基本計画にも無い「観戦用の競技場」として照明も含めて再整備しなおすというのは、今まで行政と手を携えて公園と自然を愛してきた我々にとって、不可解な事態です。

以上、諸々の観点から「陸上競技場の改修」につきましてはより慎重な審議と、地域との協議を求めて、以下の項目をお願いいたします。

請願項目

- ①発表に至った経緯や経済的な展望（建設費、維持費など）も含め、住民へ具体的な内容の説明を早急に行なってください。
- ②現況で公園を定期的を使用している団体（バラ園ボランティア、スポーツ団体、当会など）へ向け、説明会を早急に開催してください。
- ③関係団体との協議を丁寧に行い、公園の歴史と基本計画に基づいた公園作りを行ってください。
- ④専門家による周辺地域の環境への影響調査を早期に行ない、（交通アクセス、駐車場、照明の影響。公園に接する森ではオオタカの営巣が確認されている）地域住民との合意形成のもとに計画をすすめてください。
- ⑤野津田公園の地理的、環境的特性を今後も尊重し、市民とともに歩いていく公園づくりをめざしてください。